

お台場旧防波堤（2 島）における鳥類のモニタリング調査 秋季調査（10 月）報告書

2023 年 11 月 一般社団法人お台場海づくり協議会

1. 調査目的

本調査は、お台場海浜公園内旧防波堤において鳥類の利用状況や、経年変化を把握し、鳥類の生息環境保全について検討するための基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査対象地域

お台場海浜公園内旧防波堤 2 島及び周辺水域（周辺 50m 程度）

3. 調査期日等

調査期日等を表 1 に示す。

表 1 調査期日等

調査期日	調査時間	天候
令和 5 年 10 月 14 日（土）	8 : 00～14 : 00	晴

4. 調査方法

各調査項目において、倍率 8～10 倍程度の双眼鏡や倍率 20～60 倍程度の望遠鏡等を必要に応じて使い分けながら調査を実施した。また、（2）～（4）の調査については、調査精度と定量性を確保するため、2 島に調査員を 1 名ずつ配置し、2 島同時に実施した。また、補足調査として（5）の調査を実施した。

（1） 船上センサス

2 島の 50m 程度沖を船舶により定速で周回しながら、2 島及び周辺を観察し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

（2） ラインセンサス

2 島の岸沿いを縦断するセンサスルートを設定し、時速 1～2km 程度の速度で歩きながら目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。センサスルートを各島に 1 本設定し、観察範囲を片側 50m（両側 100m）とした。

(3) 定点観察調査

2島の眺望のよい地点に定点を2点ずつ設定し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。観察半径は50m程度、調査時間は各30分間とした。

(4) 任意観察調査

2島の全域を任意に踏査し、目視または鳴き声等で確認された鳥類の種名、個体数、行動等を記録した。

(5) その他

- 自動撮影カメラによる調査

第5回秋季調査（※調査回の定義については後述する）においてホンダタヌキのため糞が確認されたことから、島内に生息する生き物の情報を補完するため、同回の冬季調査から自動撮影カメラを西島に1台設置した。今回、回収するデータの撮影期間は前回調査から92日間であった（第8回夏季調査～第9回秋季調査）。

- その他の生き物の記録

鳥類調査時に特記すべき生き物が確認された場合は、種名、個体数、行動等を記録した。



船上センサス



ラインセンサス



定点観察調査



任意観察調査

写真 1(1) 各調査手法における調査風景



写真 1(2) 各調査手法における調査風景



図 1 調査地点

5. 評価方法

(1) 調査回の定義

各調査結果をとりまとめ、過去の調査と比較をすることで、今回の調査結果を評価した。調査回の定義を表 2 に示す。今回は第 9 回の秋季調査にあたる。

表 2 調査回の定義

調査回	調査時期
第 1 回	平成 27 年夏季～平成 28 年春季
第 2 回	平成 28 年秋季～平成 29 年夏季
第 3 回	平成 29 年秋季～平成 30 年夏季
第 4 回	平成 30 年秋季～令和元年夏季
第 5 回	令和元年秋季～令和 2 年夏季
第 6 回	令和 2 年秋季～令和 3 年夏季
第 7 回	令和 3 年秋季～令和 4 年夏季
第 8 回	令和 4 年秋季～令和 5 年夏季
第 9 回	令和 5 年秋季～令和 6 年夏季

(2) 重要種の選定根拠

重要種の選定根拠を表 3 に示す。いずれかに該当する種を重要種として記録した。

表 3 重要種の選定根拠

No.	選定資料	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和 25 年、法律第 214 号)	特天:特別天然記念物 天 :天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」 (平成 4 年、法律第 75 号)※以下、種の保存法と記す	国内:国内希少野生動植物種 国際:国際希少野生動植物種
③	「環境省レッドリスト 2020 鳥類」(令和 2 年、環境省) ※以下、環境省 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群
④	東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)2020 年版 『東京都レッドリスト(本土部)2020 年版』 (令和 2 年、東京都)※以下、東京都 RL と記す	EX:絶滅 EW:野生絶滅 CR+EN:絶滅危惧Ⅰ類 CR:絶滅危惧ⅠA 類 EN:絶滅危惧ⅠB 類 VU:絶滅危惧Ⅱ類 NT:準絶滅危惧 DD:情報不足 LP:絶滅のおそれのある地域個体群 *:留意種 *①: 準絶滅危惧(NT)に準ずる。 *②: 人為的な環境配慮により個体群が維持されている。

6. 調査結果

(1) 現地調査結果

鳥類確認種目録を表 4、船上センサス結果を表 5、ラインセンサス結果を表 6、定点観察結果を表 7 に示す。

- 現地調査の結果、8 目 16 科 23 種が確認された（表 4）。
- 確認種のうち、水域及びその周辺に生息する種として 11 種（カワウやユリカモメ、ハクセキレイ等）が確認され、確認種全体の約半数を占めた。島内では、森林及びその周辺に生息する種として 5 種（カケスやシジュウカラ、カワラヒワ等）が確認されたほか、都市部で見られる種として 3 種（ムクドリ、スズメ及びドバト）、様々な環境で見られる種として 4 種（キジバトやトビ、ハシブトガラス等）が確認された（表 4）。
- 渡り区分別にみると、留鳥（ある地域で一年中見られる種）の確認種数が最も多く、20 種（カルガモやアオサギ、ヒヨドリ等）が確認された。次いで冬鳥（ある地域で冬に見られる種）が 3 種（スズガモ、ユリカモメ及びカケス）確認された。
- 重要種はスズガモ、ダイサギ、コサギ、イソシギ、ウミネコ、トビ、オオタカ、ハヤブサ及びイソヒヨドリの合計 9 種が確認された（表 4）。島内では、護岸で採餌するイソシギ及びイソヒヨドリ、落葉広葉樹にとまるオオタカが確認された。島外では、海域の人工構造物にとまるウミネコ、海域で休息するスズガモ、上空を通過するダイサギ、コサギ、トビ及びハヤブサが確認された。
- 外来種はカワラバト（ドバト）が確認された（表 4）。
- 確認個体数の最も多かった種はカワウであった。本種は、船上センサスにおいて両島で合計 114 個体（表 5）、ラインセンサスでは東島で合計 3 個体（表 6）、定点観察調査では両島で合計 16 個体（表 7）が確認された。主に、落葉広葉樹にとまる個体や島内外の上空を通過する個体が確認された。
- カワウに次いで確認個体数の多かった種はヒヨドリであった。本種は、船上センサスでは両島で合計 16 個体（表 5）、ラインセンサスでは両島で合計 37 個体（表 6）、定点観察調査では両島で合計 35 個体（表 7）が確認された。主に落葉広葉樹や低木にとまる個体や、群れを成し両島間を移動する様子、上空を通過する様子が確認された。渡りの途中に中継地として採餌や休息等に利用していると推測される。
- カワウとヒヨドリ以外で確認個体数が比較的多かった種は、スズガモであった。本種は、船上センサスでは東島で合計 9 個体（表 5）、ラインセンサスでは西島で合計 16 個体（表 6）、定点観察調査では東島で合計 12 個体（表 7）が確認された。主に海域で採餌や休息する個体や、島内外の上空を飛翔する個体が確認された。

(2) 過去調査との比較

それぞれの前回調査との比較について、表 8 に確認種、表 9 に船上センサス結果、表 10 にラインセンサス結果、表 11 に定点観察結果、表 12 にこれまでの鳥類確認種目録を示す。

- 第 8 回（前回調査）と第 9 回（今回調査）の確認種数は、第 8 回では東島で 16 種、西島で 20 種、合計 23 種、第 9 回では東島で 19 種、西島で 18 種、合計 23 種であった（表 8）。第 8 回及び第 9 回で確認された共通種は 19 種（全体の約 7 割）となり、鳥類相に大きな変化は見られなかった。
- 第 8 回で確認されず第 9 回で確認された種はスズガモ、ユリカモメ、ハヤブサ及びカケスの 4 種であった。また、第 8 回で確認され第 9 回で確認されなかった種はセグロカモメ、ノスリ、チョウゲンボウ及びメジロであった（表 8）。スズガモ、ユリカモメ及びセグロカモメは冬鳥であり、これまでの秋季の現地調査において散発的に観察されている種であるため、スズガモ及びユリカモメは第 8 回で、セグロカモメ第 9 回では渡来していなかったと考えられる。ノスリ、ハヤブサ、チョウゲンボウ及びメジロは、これまでの秋季調査において不定期に旧防波堤で観察されている種であることから、ハヤブサ及びメジロは第 8 回で、ノスリ及びチョウゲンボウは第 9 回で確認されなかったと考えられる。カケスは第 2 回調査以来の観察となり、鳥の島上空を通過する様子が確認された為、渡りの移動途中であったと考えられる。
- 第 8 回より第 9 回で確認個体数が増加した種はスズガモであった（表 9、10、11）。第 9 回でスズガモは、主に海域で休息する個体や、島内外の上空を通過する個体が確認された。前述した通り、本種は冬鳥であり、第 8 回には確認されなかったが第 9 回の実施時には観察された為、確認個体数が増加した。

(3) その他

自動撮影カメラによる調査及び鳥類調査時に確認されたその他の生き物の記録を整理した結果、鳥類 4 目 4 科 5 種、哺乳類 1 目 1 科 1 種が確認された。

- 自動撮影カメラの画像を解析した結果、鳥類ではキジバト、アオサギ、ダイサギ、トビ及びハシブトガラスの 5 種、哺乳類では、ドブネズミ 1 種が確認された。
- アオサギがドブネズミや魚類を採食する様子が撮影され、旧防波堤を採餌場所として利用している様子が確認された。

表 4 鳥類確認種目録

No.	目名	科名	種名	渡り 区分	調査時期		重要種選定基準			
					秋季(10月)		①	②	③	④
					東島	西島				
1	カモ	カモ	カルガモ	留鳥	○	○				
2			スズガモ	冬鳥	○	○				*②
3	ハト	ハト	キジバト	留鳥		○				
4	カツオドリ	ウ	カワウ	留鳥	○	○				
5	ペリカン	サギ	アオサギ	留鳥	○	○				
6			ダイサギ	留鳥	○					NT
7			コサギ	留鳥	○	○				VU
8	チドリ	シギ	イソシギ	留鳥	○	○				VU
9		カモメ	ユリカモメ	冬鳥	○					
10			ウミネコ	留鳥	○	○				*①
11	タカ	タカ	トビ	留鳥	○	○				NT
12			オオタカ	留鳥	○				NT	EN
13	ハヤブサ	ハヤブサ	ハヤブサ	留鳥		○		国際	VU	EN
14	スズメ	カラス	カケス	冬鳥	○					
15			ハシブトガラス	留鳥	○	○				
16		シジュウカラ	シジュウカラ	留鳥	○	○				
17		ヒヨドリ	ヒヨドリ	留鳥	○	○				
18		ムクドリ	ムクドリ	留鳥		○				
19		ヒタキ	イソヒヨドリ	留鳥		○				NT
20		スズメ	スズメ	留鳥	○	○				
21		セキレイ	ハクセキレイ	留鳥	○	○				
22		アトリ	カワラヒワ	留鳥	○	○				
23	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	留鳥	○					
合計	8 目	16 科	23 種	-	19 種	18 種	0 種	1 種	2 種	9 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

注 2. 重要種選定基準は表 3 に従った。

表 5 船上センサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期		合計 個体数
				秋季(10月)		
				東島	西島	
1	カモ	カモ	カルガモ	6	0	6
2			スズガモ	9	0	9
3	カツオドリ	ウ	カワウ	40	74	114
4	ペリカン	サギ	アオサギ	24	4	28
5	チドリ	シギ	イソシギ	3	5	8
6	タカ	タカ	トビ	0	1	1
7	スズメ	カラス	ハシブトガラス	1	2	3
8		シジュウカラ	シジュウカラ	1	0	1
9		ヒヨドリ	ヒヨドリ	2	14	16
10	ハト	ハト	カワラバト(ドバト)	2	0	2
合計	7 目	9 科	10 種	88	100	188
				9 種	6 種	10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 6 ラインセンサス結果

No.	目名	科名	種名	調査時期				合計 個体数
				秋季(10月)				
				L1(東島)		L2(西島)		
				個体数	優占度	個体数	優占度	
1	カモ	カモ	スズガモ	0	0%	16	26%	16
2	カツオドリ	ウ	カワウ	3	15%	0	0%	3
3	ペリカン	サギ	アオサギ	1	5%	1	2%	2
4	チドリ	シギ	イソシギ	2	10%	2	3%	4
5		カモメ	ウミネコ	0	0%	6	10%	6
6	スズメ	カラス	ハシブトガラス	2	10%	2	3%	4
7		ヒヨドリ	ヒヨドリ	9	45%	28	46%	37
8		スズメ	スズメ	2	10%	2	3%	4
9		セキレイ	ハクセキレイ	1	5%	1	2%	2
10		アトリ	カワラヒワ	0	0%	3	5%	3
合計	5 目	10 科	10 種	20	100%	61	100%	81
				7 種		9 種		10 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 7 定点観察結果

No.	目名	科名	種名	調査時期								合計 個体 数
				秋季(10月)								
				東島				西島				
				P1		P2		P3		P4		
				個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	個 体 数	優 占 度	
1	カモ	カモ	カルガモ	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	1
2			スズガモ	0	0%	12	31%	0	0%	0	0%	12
3	カツオドリ	ウ	カワウ	5	22%	2	5%	7	19%	2	13%	16
4	ペリカン	サギ	アオサギ	0	0%	0	0%	1	3%	1	6%	2
5			ダイサギ	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	1
6			コサギ	0	0%	2	5%	6	16%	0	0%	8
7	チドリ	シギ	イソシギ	1	4%	4	10%	3	8%	1	6%	9
8		カモメ	ユリカモメ	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%	1
9			ウミネコ	1	4%	0	0%	0	0%	3	19%	4
10	タカ	タカ	トビ	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%	1
11			オオタカ	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%	1
12	スズメ	カラス	カケス	0	0%	2	5%	0	0%	0	0%	2
13		カラス	ハシブトガラス	1	4%	2	5%	2	5%	1	6%	6
14		シジュウカラ	シジュウカラ	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	2
15		ヒヨドリ	ヒヨドリ	5	22%	14	36%	9	24%	7	44%	35
16		ムクドリ	ムクドリ	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	2
17		スズメ	スズメ	2	9%	0	0%	0	0%	0	0%	2
18		セキレイ	ハクセキレイ	2	9%	0	0%	4	11%	0	0%	6
19		アトリ	カワラヒワ	4	17%	0	0%	0	0%	0	0%	4
合計	6 目	14 科	19 種	23	100%	39	100%	37	100%	16	100%	115
				10 種		8 種		10 種		7 種		19 種

注 1. 分類、配列等は原則として「日本鳥類目録 改訂第 7 版」(平成 24 年、日本鳥学会)に準拠した。

表 8 前回調査結果との比較：確認種

No.	種名	調査時期			
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		第8回 (R4～R5)		第9回 (R5～R6)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	○		○	○
2	スズガモ			○	○
3	キジバト	○	○		○
4	カワウ	○	○	○	○
5	アオサギ	○	○	○	○
6	ダイサギ	○	○	○	
7	コサギ	○	○	○	○
8	イソシギ	○	○	○	○
9	ユリカモメ			○	
10	ウミネコ	○	○	○	○
11	セグロカモメ	○	○		
12	トビ	○	○	○	○
13	オオタカ		○	○	
14	ノスリ		○		
15	チョウゲンボウ		○		
16	ハヤブサ				○
17	カケス			○	
18	ハシブトガラス	○	○	○	○
19	シジュウカラ	○	○	○	○
20	ヒヨドリ	○	○	○	○
21	メジロ		○		
22	ムクドリ		○		○
23	イソヒヨドリ	○			○
24	スズメ	○		○	○
25	ハクセキレイ	○	○	○	○
26	カワラヒワ		○	○	○
27	カワラバト(ドバト)		○	○	
合計	27 種	16 種	20 種	19 種	18 種
		23 種		23 種	

表 9 前回調査との比較：船上センサス結果

No.	種名	調査時期			
		秋季(10月)		秋季(10月)	
		第8回 (R4～R5)		第9回 (R5～R6)	
		東島	西島	東島	西島
1	カルガモ	6	0	6	0
2	スズガモ	0	0	9	0
3	カワウ	4	114	40	74
4	アオサギ	17	9	24	4
5	ダイサギ	0	1	0	0
6	イソシギ	2	1	3	5
7	ウミネコ	0	1	0	0
8	セグロカモメ	1	0	0	0
9	トビ	0	1	0	1
10	ハシブトガラス	3	0	1	2
11	シジュウカラ	1	0	1	0
12	ヒヨドリ	29	6	2	14
13	ハクセキレイ	0	1	0	0
14	カワラバト(ドバト)	0	0	2	0
合計個体数		63	134	88	100
合計島別種数		8 種	8 種	9 種	6 種
合計種数		12 種		10 種	

表 10 前回調査との比較：ラインセンサス結果

No.	種名	調査時期							
		秋季(10月)				秋季(10月)			
		第8回(R4～R5)				第9回(R5～R6)			
		L1(東島)		L2(西島)		L1(東島)		L2(西島)	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	スズガモ	0	0%	0	0%	0	0%	16	26%
2	カワウ	2	13%	10	19%	3	15%	0	0%
3	アオサギ	0	0%	2	4%	1	5%	1	2%
4	イソシギ	3	20%	5	9%	2	10%	2	3%
5	ウミネコ	0	0%	1	2%	0	0%	6	10%
6	ハシブトガラス	2	13%	2	4%	2	10%	2	3%
7	シジュウカラ	2	13%	0	0%	0	0%	0	0%
8	ヒヨドリ	4	27%	32	60%	9	45%	28	46%
9	スズメ	2	13%	0	0%	2	10%	2	3%
10	ハクセキレイ	0	0%	1	2%	1	5%	1	2%
11	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	3	5%
合計	11 種	15	100%	53	100%	20	100%	61	100%
		6 種		7 種		7 種		9 種	

表 11 前回調査との比較：定点観察結果

No.	種名	調査時期															
		秋季(10月)								秋季(10月)							
		第8回(R4～R5)								第9回(R5～R6)							
		東島				西島				東島				西島			
		P1		P2		P3		P4		P1		P2		P3		P4	
		個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度	個体数	優占度
1	カルガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%
2	スズガモ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	12	31%	0	0%	0	0%
3	キジバト	0	0%	1	5%	2	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
4	カワウ	10	32%	2	10%	44	56%	39	62%	5	22%	2	5%	7	19%	2	13%
5	アオサギ	1	3%	1	5%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	1	3%	1	6%
6	ダイサギ	1	3%	1	5%	0	0%	1	2%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
7	コサギ	0	0%	2	10%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	6	16%	0	0%
8	イソシギ	4	13%	1	5%	2	3%	2	3%	1	4%	4	10%	3	8%	1	6%
9	ユリカモメ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	3%	0	0%	0	0%
10	ウミネコ	0	0%	3	14%	1	1%	6	10%	1	4%	0	0%	0	0%	3	19%
11	セグロカモメ	1	3%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
12	トビ	1	3%	1	5%	1	1%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	6%
13	オオタカ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	1	4%	0	0%	0	0%	0	0%
14	カケス	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%	0	0%
15	ハシブトガラス	2	6%	3	14%	2	3%	5	8%	1	4%	2	5%	2	5%	1	6%
16	シジュウカラ	1	3%	0	0%	2	3%	2	3%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%
17	ヒヨドリ	7	23%	5	24%	24	31%	3	5%	5	22%	14	36%	9	24%	7	44%
18	ムクドリ	0	0%	0	0%	0	0%	2	3%	0	0%	0	0%	2	5%	0	0%
19	スズメ	2	6%	0	0%	0	0%	0	0%	2	9%	0	0%	0	0%	0	0%
20	ハクセキレイ	1	3%	1	5%	0	0%	1	2%	2	9%	0	0%	4	11%	0	0%
21	カワラヒワ	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	4	17%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	21 種	31	100%	21	100%	78	100%	63	100%	23	100%	39	100%	37	100%	16	100%
		11 種		11 種		8 種		10 種		10 種		8 種		10 種		7 種	

表 12 (1) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期																	
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
1	オカヨシガモ				○		○		○	○									
2	ヒドリガモ									○	○				○				
3	マガモ		○	○	○		○	○	○										
4	カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5	ハシビロガモ											○	○	○					
6	オナガガモ				○	○	○			○				○					
7	コガモ							○						○					
8	ホシハジロ						○	○		○	○	○			○	○	○		
9	キンクロハジロ										○								
10	スズガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
11	ホオジロガモ													○					
12	ウミアイサ		○					○	○	○			○	○		○	○		
13	カイツブリ															○			
14	カンムリカイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
15	ミミカイツブリ			○								○							
16	ハジロカイツブリ	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
17	キジバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
18	カワウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
19	ゴイサギ					○													
20	ササゴイ		○																
21	アオサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
22	ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
23	チュウサギ									○									
24	コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表 12 (2) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期																	
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
25	オオバン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
26	カッコウ科の一種											○							
27	コチドリ	○	○		○	○	○			○	○	○		○	○	○	○		
28	ヤマシギ												●						
29	タシギ							○											
30	チュウシャクシギ														○				
31	キアシシギ									○									
32	イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
33	キョウジョシギ					○	○								○				
34	ユリカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
35	ウミネコ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
36	カモメ	○	○			○													
37	セグロカモメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
38	オオセグロカモメ	○	○	○	○	○	○					○		○	○				
39	コアシサシ	○	○	○	○	○	○		○										
40	ミサゴ	○		○			○		○		○	○							
41	ハチクマ	○																	
42	トビ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
43	ハイタカ		○		○					○									
44	オオタカ	○		○	○	○	○		○			○					○	○	
45	ノスリ		○	○	○	○		○		○		○	○	○	○		○		
46	オオコノハズク														●				
47	カワセミ			○			○			○		○		○					
48	チョウゲンボウ		○				○	○									○		

表 12 (3) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期																	
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
49	ハヤブサ			○	○	○	○	○	○						○				○
50	モズ			○	○	○	○	○	○	○	○			○					
51	カケス				○													○	
52	オナガ			○	○	○	○			○									
53	ハシブトガラス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
54	ヤマガラ												○						
55	シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
56	ヒバリ						○												
57	ツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
58	ヒヨドリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
59	ウグイス	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○		○		
60	オオムシクイ								○				○						
61	メジロ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○		
62	オオヨシキリ			○		○				○	○	○							
63	ムクドリ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
64	コムクドリ				○	○													
65	シロハラ	○	○	○	○								○	○	○		○		
66	アカハラ	○			○			○			○								
67	ツグミ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		
68	ジョウビタキ	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
69	イソヒヨドリ	○	○		○		○		○		○		○	○	○	○	○		○
70	キビタキ	○				○													
71	スズメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
72	キセキレイ			○															
73	ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

表 12 (4) 鳥類確認種目録 (第 1 回～第 9 回)

No.	種名	調査時期																	
		第 1 回 (H27 夏～ H28 春)		第 2 回 (H28 秋～ H29 夏)		第 3 回 (H29 秋～ H30 夏)		第 4 回 (H30 秋～ R1 夏)		第 5 回 (R1 秋～R2 夏)		第 6 回 (R2 秋～R3 夏)		第 7 回 (R3 秋～R4 夏)		第 8 回 (R4 秋～R5 夏)		第 9 回 (R5 秋～R6 夏)	
		東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島	東島	西島
74	セグロセキレイ				○								○						
75	タヒバリ						○				○								
76	カワラヒワ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
77	シメ							○				○							
78	ホオジロ	○		○	○			○		○						○			
79	アオジ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
80	オオジュリン			○						○									
81	カワラバト(ドバト)	○	○					○			○	○	○	○	○	○	○	○	
合計	81 種	41 種	40 種	44 種	47 種	42 種	45 種	38 種	38 種	44 種	39 種	40 種	37 種	41 種	40 種	34 種	37 種	19 種	18 種
		46 種		53 種		51 種		47 種		50 種		50 種		47 種		39 種		23 種	

注 1. ●:自動撮影カメラのみで確認された種を示す。

 スズガモ(重要種)	 キジバト
 カワウ	 ダイサギ(重要種)
 コサギ(重要種)	 イソシギ(重要種)
 ウミネコ(重要種)	 トビ(重要種)

写真 2(1) 確認された主な鳥類



写真 2(2) 確認された主な鳥類



写真 3 自動撮影カメラで確認された生き物